

スポーツで拓かれる 宇都宮の未来予想図



2039年。もちろん自動車は空を飛び、すべて自動制御で信号もない。そう、「道路」という概念がもう地球上にはなくなっている。地球温暖化も最新の環境回復技術によって止まり、「エコ」と言っていた時代さえ、すでに懐かしい。

しかし、どんな時代になるうとも、人々が「スポーツ」を求め、情熱を傾ける気持ちはなくならない。むしろ、何でも手に入り、安心して暮らせる世の中だからこそ、「スポーツ」の熱さをより望むに違いない。

そんな、スポーツを愛する人たちが憧れ、世界中から訪れる街が「スポーツの街・宇都宮」である。

さあ、ここから「宇都宮」だ。

まず、J・R宇都宮駅東口に降りてみよう。眼前に現れるのが、10万人を収容することができる巨大サッカー専用スタジアム「TOCHIGIサッカースタジアム」。昨年、2038 FIFAワールド

TOCHIGI日光アイスバックスのホームでもある。「プロバスケットボールチームとプロアイスホッケーチームのホームを兼ねることができなのか？」と、疑問に思う人も少なくないだろう。

何とTOCHIGIアリーナは、国内初「スイッチ一つでアイスアリーナに早変わりする最新技術を擁している」のである。既に幾度となくアジア王者に輝いているH.C. TOCHIGI日光アイスバックスは、日光とTOCHIGIアリーナでホームゲームを分け、より多くのアイスホッケーファンに観戦の機会を提供している。

さらに特筆すべきは、日本が誇る「TOCHIGIサッカースタジアム」と「TOCHIGIアリーナ」は地下がつながり、空中自動車を五千台収容できる巨大パーキングとなっていることだ。乗ったまま通過できる地下通路は、渋滞対策として世界初の成功例と言っても過言ではない。また、パーキングへの出入口は市内各所に点在し、市民が自由に利用しているところも、海外スポーツファンを羨ましがるに違いない。

しかし、道路が消えたわけではない。今、道路といえは「自転車専用」というイメージだ。世界最大規模の自転車ロードレースとなった「ジャパンカップサイクルードレース」を開催する宇都宮では、日常生活に自転車を使い、サイクルスポーツを楽しむ市民の数が世界一となっている。

特に今年のジャパンカップは、宇都宮ブリッツェンが10連覇達成なるか？と、全世界の注目を集めている。空中を自在に駆け回る時代にあっても、ブリッツェ

カップで、日本VSブラジルの決勝が行われた、世界最先端のスタジアムである。「リーグ連覇記録を更新中の「栃木サッカークラブ」のホームとしても知られている。ホームゲームの日は、宇都宮駅周辺に割ればかりの歓声が響き渡ることは、誰もがスポーツニュースで観て知っているだろう。

次に、巨大アリーナを紹介しよう。TOCHIGIサッカースタジアムから東に目を向けると、リンク栃木ブレックスのホームであり、三万人収容可能な「TOCHIGIアリーナ」が目飛び込んでくる。NBAオールスター戦はアメリカと日本で開催されることとなり、もちろん、世界的にも有名なTOCHIGIアリーナが開催会場として選ばれた。来月、日本代表チームとしてリンク栃木ブレックスがNBAオールスターチームと激突する。世界中のバスケットボールファンにとって、見ごたえのある熱いゲームになることは確実だ。そして、このアリーナはH.C.

の熱い走りは、人間のパワーを見せつけ、感動を呼び起こす。

ところで最近、世界中のスポーツファンから「宇都宮からミラクル・アスリートが多数輩出されるのはなぜか？」と、質問される宇都宮市民が多いのだという。

実は、それは「宇都宮の子どもたちの誰もが幼少時からスポーツに慣れ親しんでいる」ことが理由だ。

宇都宮では、市内全ての小中学校で校庭が最先端バイオ技術により芝生化されている。これによって、思いのままにスポーツを楽しむことは言うまでもない。加えて毎月、プロスポーツ選手による体育の授業を受けられることも世界では他に類を見ない。多くの子どもたちがプロスポーツ選手との交流を通して、自然にスポーツへの志を培っている。その経験が、宇都宮出身のアスリートを数多く誕生させるきっかけとなっているのだ。

今、宇都宮市は「スポーツシティ」として、国内はおろか、世界中にその名をどろかせるに至った。県外からのスポーツ観戦客は年間三千万人を越え、経済効果はいまや一十億円を臨むところまできている……。

——という未来を夢物語に終わらせない、終わらせてはいけない。

宇都宮商工会議所青年部は「スポーツによるまちづくり」を目指し、未来図に近づけるよう一歩一歩進んでいきます。

